

1. 実況上の着目点

① 前線が種子島・屋久島地方の東海上から本州の南岸付近を通り、日本のはるか東にのびている。四国の南の熱帯低気圧は、前線と一体化し温帯低気圧に変わり東北東進。また、前線上の関東の東には低気圧があって東北東進。低気圧や前線の近傍及びその暖域側では、大気の状態が非常に不安定となっており、四国の南～東海道沖では、1時間90mm以上の猛烈な雨、伊豆諸島付近の海上では、1時間30mmの激しい雨を解析。雷を多数検知。

② フィリピンの東には熱帯低気圧があって発達しながら南下。熱帯低気圧本体やその周辺では大気の状態が不安定となっている。南西諸島付近の海上では、1時間60mm以上の非常に激しい雨を解析。雷を多数検知。奄美の南東海上ではメソサイクロンを検出。

③ マリアナ諸島には台風第17号があって、ゆっくり西進。

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

① 1項①の前線は、南西諸島から日本の東にのびて、29日にかけて日本の南をやや南下する。1項①の関東の東の低気圧は、29日にかけて日本の東を東進。また、1項①の前線と一体化した低気圧は北東進し、28日夜には東海沖まで進む、その後、29日朝にかけて伊豆諸島付近を通過しキンクに変わる。低気圧や前線に向かって高気圧の縁辺を回る下層暖湿気が流入し、低気圧や前線の近傍では、大気の状態が非常に不安定となるため、雷を伴った激しい雨や非常に激しい雨が降り、大雨となる所がある。東日本太平洋側では28日は、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水や氾濫に警戒し、落雷や竜巻などの激しい突風、降ひょうに注意。また、1項③の北上する台風の影響で、伊豆諸島や小笠原諸島では29～30日は、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水、落雷や突風に注意。局地的に竜巻などの激しい突風に注意。

② 2項①の低気圧や前線と2項①の高気圧や沿海州付近の高気圧との間で、南西諸島～東日本では気圧の傾きが大きくなり、やや強い風や強い風が吹いて、波が高くなり、30日はしけとなる所がある。南西諸島～東日本では30日にかけて、強風や高波に注意。

③ 1項②の熱帯低気圧は発達しながら南下し、28日朝までに台風になる見込み。熱帯低気圧周辺の暖かく湿った空気が流入し、大気の状態が非常に不安定となる。南西諸島では30日にかけて、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水、落雷や突風に注意。局地的に竜巻などの激しい突風に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。台風第17号については、今後の台風情報に留意。

4. 防災関連事項【量的予報等】 ①雨量(06時からの24時間)：伊豆諸島200mm。②波浪(明日まで)：関東・伊豆諸島・沖縄3m。③高潮(明日まで)：東日本では注意報基準を超過する所がある。

5. 全般気象情報発表の有無 発表の予定はない。



主要じょう乱解説図